Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community.

1993年7月7日
京都精華大学発行

KINO PRESS
木野通信
KYOTO SEIKA 第19号 UNIVERSITY

This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus events, personnel changes, student news, and perspectives on campus life.

京都精華大学　企画室
京都市左京区岩倉木野町137
TEL (075) 702-5201

開学二十五周年を迎えて

学長　柴谷篤弘

京都精華大学は本年開学二十五周年を迎える。この間多くの困難を克服して、四年制二学部と大学院修士課程二研究科をもつ複合大学に発展した。しかし一九九二年度を境に就学年齢人口が急激に減少するなかで、大学は設置基準の大綱化に沿って、カリキュラムの改革と自己点検・自己評価を行わねばならない。また、過去からの内部矛盾の蓄積を克服するためにも、本学は従来の方針を漠然と継続するのでなく、今後にむけての新しい方針を確立する必要に迫られている。昨年四月はじめて管理職に就いたばかりの私は、大学運営についても、右の課題に対処するにも、識見・実力ともにはなはだ不十分であるが、以下に私見を述べてみたい。

まず第一に、われわれは現在、本学の建学の精神である「自由・自治」の現代的意味をどう再定義するか、という根本的な問いかけに直面していると思う。他の多くの大学同様、本学もこれまで原則的に研究の自由を尊重し、教授会の自治を確保してきた。これは元来、政治の学問に対する干渉から知的世界が自らを守り抜くための伝統的な方策であった。

しかし日本の大学では、現在著しく層の厚さを増してきた学生（社会人学生と留学生を含む）の多様化する要求にどう応えるか、という点だけでなく、変貌する社会に大きく寄与できる卒業生を送り出すことが至上命令となっている。世界が冷戦崩壊後の民族抗争と経済の低迷、環境破壊、第一・第三世界の二極化などの大混乱に対処する方針をまだ確立できず、著しく不安定・不確実性の度を増している時、われわれはどのような価値を求めて大学教育を続けてゆくべきであろうか。

美術学部では、芸術系教育機関がこれまで目的としてきた、すぐれた表現者を一人でも多く育てる、という自明の課題に加えて、現代社会のなかで他の人々と共同して仕事をしてゆく人材を送り出さねばならないだろうし、人文学部は、国際社会において経済肥大した日本が果たすべき役割を、批判的に国の内外に発信できる市民の大群を養成することをめざすべきであろう。

このためには、従来のように研究と教育を教員の恣意にまかせておくだけでは、大学の責任を十分に果たせないと思う。教員は専攻分野が何であるにせよ、できるだけ右の方向に合致する研究主題を選び、教育の内容を自らの内部から豊かにしてゆくことが望まれる。

他方教育それ自体に関しては、私学においてそもそも「教育の自由」という概念が成立するかどうかについて、根本的な問い直しをする必要がある。経営の財政的基盤を大部分学生の納付金でまかなう以上、私学は学生に「万全」の教育環境と内容を提供する義務がある。今後はその点で大学間の競争に生き残る可能性が試されるだろう。

大学は、適切な方法で上記の目的に添ったカリキュラムを策定し、それを実践していくために、教職員を雇用しているのだと割り切ってはどうか。教育実践において、教員と職員がはっきりと平等の原則に立ち、そこに労働の自由について等しく制限をうける、ということを了解すべきではないか。教員が担当のコマ数以外に、種々の委員会や役付について、できるだけ平等な報酬を受け取れるよう、従来の給与体系を根本的に見直すために、大学として、これまで避けてきた、この課題に対する対応の具体化を急がねばならないだろう。

またカリキュラムに関していえば、現代日本の種々の面（現代史、社会、差別、国際関係、政治、文学など）を、日本語でも英語でも本学内外の学生に講義できる教員（そんな人たちをこの大学は継続的に失ってきた！）の採用を、国際交流の発展にむけて、人事における重点としたいと思う。この点を研究面でとらえ直せば、ともすれば今日の現実の課題から目をそらし、時間的にも距離的にも遠い世界に探求の焦点をあわせやすかった日本の大学の学風を改める、という課題を正視すべき時がすでに来ているように、私は思う。

京都精華大学 1994 年度入試日程

人文学部

①募集定員……人文学部　人文学科 300名

②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	試験会場	試験科目
公募推薦入試	11月1日(月)〜11月12日(金)	11月23日(火)	11月27日	12月7日	本学及び関西文理学院	英語
一般一次入試	1月17日(月)〜1月31日(月)	2月11日(金)	2月18日	2月28日	本学及び関西文理学院	英語、国語、選択科目（日本史・世界史・小論文から1科目選択）
一般二次（地方）入試	2月14日(月)〜2月28日(月)	3月7日(月)	3月12日	3月22日	東京 金沢 名古屋 広島	英語、国語、選択科目（日本史・世界史・小論文から1科目選択）

③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。

美術学部

①募集定員……美術学部　造形学科 150名　デザイン学科 150名

②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	会場	試験科目
公募推薦入試	11月9日(火)〜11月25日(木)	12月8日(水)〈洋画・陶芸・マンガ〉12月9日(木)〈立体造形・VCD〉12月10日(金)〈日本画・建築・版画・TD〉	12月19日	12月29日	本学	実技A（鉛筆デッサン）実技B（専攻分野実技）
一般入試	1月19日(水)〜2月3日(木)	2月16日(水)・17日(木)〈洋画・陶芸・マンガ〉2月18日(金)・19日(土)〈日本画・建築・版画・TD 立体造形・VCD〉	2月26日	3月7日	本学	英語 文章の理解 実技A 実技B

③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。

SEIKA 25 STEPS
京都精華大学 25周年記念

開学25周年記念事業について

実行委員長 松谷昌順

参加のよびかけ

本学は、一九六八年京都精華短期大学として開学以来、本年で二十五周年を迎えます。

岩倉木野の豊かな山並みに囲まれたキャンパスは当時から比べると見違えるように広くなり、学舎も増え、いま、活発な学生諸君で大いに賑わっています。現在、教職員は約一三〇人、学生数約二七〇〇人の規模で、この四半世紀に輩出した卒業生は約一万二千人にもなり、歴史の流れを感ずにはおれません。

九十四年は、美術学部（四年制）開設十五周年、人文学部（四年制）開設六周年、大学院美術研究科三周年、同人文学研究科完成年の記念すべき節目となり、さらには学内的に組織、教学その他で、様々な改変が予定されており、「文化と芸術」の「二十五周年」の本学は今まさに新たなステップを踏みだそうとしています。

記念事業のテーマは「SEIKA 25 STEPS」。卒業生諸氏が培ってこられた学風にふさわしいセイカらしい個性的な企画事業を展開したいと考えています。どうかこの記念事業に大いに参加していただき、これを機会にぜひなつかしい木野の地に母校の過去と現在、未来を見つけて頂けたらと存じます。

記念事業は下記のような行事を予定しています。卒業生の皆さんで誘い合わせてぜひ出席くださいますようお待ちしております。なお、これらは、現在の予定行事で、今後追加される可能性があります。

思い出の写真 大募集!!

本学では開学二十五周年を迎えて、今年度『木野評論』で京都精華大学25年史を特集いたします。

ついては25年の歩みの中で、記念となる写真、思い出の写真その他資料などがございましたら、是非当委員会に拝借できれば幸いです。何点かの写真を選ばせていただき、『木野評論』に掲載したいと存じます。編集の都合上、八月末までにご送付をお願いします。

拝借する期間は、来年の三月頃までです。お預かりした写真は、責任をもって保管のうえご返却いたします。

皆様の積極的なご提供をお願い申し上げます。

（ご送付先）〒606 京都市左京区岩倉木野町137 京都精華大学企画室
25周年記念事業実行委員会行
Tel〇七五－七〇二－五一三七
（担当 図書・情報課 有水）

（注）ご寄贈頂ける写真には、その旨ご明記下さい。

開学25周年記念事業スケジュール

◎各イベントの時間等は変更される事があります。来場の節は大学にお問い合わせ下さい。

I.A.リチャーズ祭 －生誕100年記念－
5月22日～23日
会場 学内
本学人文学部主催・講演・シンポジウム
（終了）

シンポジウム ラウンドテーブル83 －地域から地域へ－
6月19日～20日
京都学生研修センタ
主催「地域を拓〈シンポ」
本学協賛
（終了）

大講演会「新しい世界のはじまり」－500年目の大転換－
I.ウオラーステイン氏（NY州立大教授）×鶴見俊輔氏×武藤一羊氏
12月7日（火）午後1時～4時
国立京都国際会館 大会議場
本学主催 入場無料
旧ソ連を中心とした社会主義体制の崩壊に続き、資本主義も発展のエネルギーを失いやがて終焉を迎える可能性がある。独自に打ち立てた「世界システム論」で世界的潮流を分析、大胆な予測を展開するI．ウオラーステイン教授を迎え、日本の2大識者と「将来の世界と日本」を中心に論じて頂きます。

'93 ●美術個展 ●美術個展 '94 ●美術個展 ●美術個展

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

●美術個展 ●美術個展 ●美術個展 ●美術個展

ザウオセとバガモヨ・プレイヤーズ（アフリカ民族音楽）
7月17日（土）
午後2時～8時
会場 学内
本学主催 無料
ZAWOSE（タンザニア）他、6人編成の伝統的民族音楽。「ニュース・ステーション」に紹介された世界的グループ。魂を揺るがす演奏と踊りの他に、講演会、映画、料理もお楽しみ下さい。

Rockin' Asia（アジア諸国ロック大会）
10月24日（日）
午後1時～午後9時
会場 学内
本学主催 無料
北京レゲエ（中国）・モンコンバンド（タイ）・ジプシーズ（スリランカ）・SANDII（日本） その他アジア諸国のロックを大々的に紹介し、感性の国際交流を実践します。

セイカの森展

25年史増刊号 木野評論

事業計画中 その他

大学教育の活性化にむけて

活性化委員長 稲浦嘉顕

今、日本全国で、大学教育の実質を問いただすといった観点から、その在り方を根本的に見直そうという動きが起こっています。

確かに、世界の急激な変化に触発された行政主導の改革という側面は否めませんが、これを機に、旧来の教育理念やシステムを一新しようという自発的な思いは大学側にもあって、それが、この二、三年の間に具体的な変革への模索として、諸大学内にいろいろな活動を生みつつあるのが現状です。

ただ、これは、とりわけ本学のような私学の場合、就学人口の減少による経営の深刻化の兆しや、十分な再整備なしには存立が難しいと言われる今後の状況を考える時、素朴に教学面だけで論じるわけにはいかない問題でもあります。そこから始める他はないと思っています。

問題は、何よりも先ず学生と教職員の教育的交流を、もっと強く、広く、活発にする点にあります。目下その下準備としてのアンケート調査などが計画されている段階ですが、これは、一方で、「学生による精華大学の教育への要望および評価」といった形の意識調査にもなりうるものです。

しかし、委員会では、こうした目論見が時には本質的な問題から逸脱して歪んだ制度に堕する可能性なども顧慮しながら、最良の形を模索しているところです。

また、各人の学内での日常生活意識も教育活動の活性化を左右する大きな要素であるという考えから、学生、教職員が大学そのものを隅々まで識り、大学との一体感を抱いて暮らせるような方法を考案できればとも思っています。

例えば、学内での実生活に必要な情報が何でも得られる学内便覧の作成や、教学の全域に亘る情報センターの設置などが、その一案です。

大学の活力は、本来、その知的活動の中から自然に醸成されてこそ教育の実質に繋がるものと言えます。その上、これは、教学から経営まで、周辺地域との関係から国際交流まで、どのような場に据えてみても、必ずなんらかの関わりを持つ問題でもあります。

それだけに、広く自然な視野を持って地道に問題に当たるのがやはり最善の道であろうと考えています。

ともあれ、精華大学でも様々な試みが始動しており、その一環として、学内における教育活動の全域に新たなエネルギーを呼び覚ます努力が、組織的に始まろうとしています。

この計画には、また、「われわれの教育をわれわれ自身の手で点検・評価する」制度の設置という別の側面もあって、何らかの具体的プラグラムの作成に至るには、まだまだ時間を要するものですが、ともかく〈大学活性化委員会〉という新たな学内組織の形を得て始まったところです。

昨年の十月に発足したこの委員会に委ねられた問題は、あまりにも茫洋として、どこから手をつけるべきか判然としないのが実情ですが、しかし、少なくとも、確かに問題として実感されるものは日常の教育現場にあるという見方から、ともかく、そこから始める他はないと思っています。

大学院人文学研究科が発足しました

かねて申請していた大学院人文学研究科が3月19日に認可された。それから広報をする間もなく入試をせねばならず、受験者が集まるかと懸念されたが、16名の志願者、14名の受験者があり、定員どおり10名の入学者を迎えることができた。時間不足のせいだけにしてはいけないが、入試に関しては全てがリハーサルなしの一発勝負だったので、来年以降の課題とすべき問題がないわけではないが、人文学研究科が無事に船出したことを喜びたいと思う。

「社会人の受入れ」を前面に押し出したためか、問い合わせ、受験者とも予想を上廻る数の社会人から反応があり、結局3名が入学した。

人文学研究科についての問い合わせは現在もひっきりなしに続いており、来年度以降志願者は更に増えるもとの期待される。

しかし、本学以外からの新卒の志願者が1名にとどまったことは、今後の広報上の課題であるといえよう。

一方、大学院美術研究科では今春最初の修了者を送り出した。「芸術学修士」が14名誕生したわけである。

専門的な知識・技能と持ち前の感性とをそれぞれのフィールドで発揮されるよう祈りたい。

国内諸大学との提携始まる

本学では、学生の学習機会を拡大するため、本年度より「派遣学生制度」をスタートさせた。これは本学に在籍したまま、派遣された大学で学び、取得した単位を二〇単位まで本学の卒業単位に算入するという制度である。人文学部では、日本文化をよりグローバルな視点から理解する必要があるという考えにもとづいて、北海道の旭川大学と沖縄の沖縄大学と提携することになった。

旭川大学は、一九七〇年に北日本学院大学から名称変更され、「地域に根ざす」ことを通して教育機能の向上を目標にしており、この目標に沿ったユニークなカリキュラムが開設されている。アイヌの存在をとおして日本文化の多様性に気づくことが可能である。旭川大学は学生数一三〇〇人ぐらいの小じんまりした大学で、遠くには大雪山連嶺が見える。

沖縄大学は那覇市内に位置し、経済学部と短期大学部から構成されている単科大学で、学生数は一五〇〇人。本学よりは小さいが、沖縄の特色を生かした「沖縄現代史」「沖縄文化論」等の学科目が開講されている。沖縄の歴史と文化を学ぶ事で日本の文化と歴史について新しい発見が可能である。本年四月より人文学部三年生一人が派遣されている。

ようやく完成しました テキスタイル・デザイン実習棟

長い間実現が望まれていた、テキスタイル・デザインの実習棟がこの3月に竣工しました。建物の名称は『光彩館』延床面積は約二五〇〇㎡で実習室、研究室、資料室等を備えています。今まで建物の裏側を流れていた谷水を建物の前面に移動させることで、スパラシイ空間が実現しました。設計は本学の上田教授、工事は三井建設にお願いしました。

（光彩館の全景）

図書・情報館が発足しました

図書館とAVセンターは、永年の間それぞれ情報蓄積とサービスの提供に努力してきました。本学では、全学的な見地から、時代の要請に応えうる新たな体制を目指してこれらの組織と業務を統合し、4月1日をもって「図書・情報館（Library and Information Centre）」として発足いたしました。

第II期施設整備計画の一環である「新図書・情報館棟」が竣工するまでは、当分のあいだ施設を分散した現状のままで、図書・情報館の「図書館部門」と「AVセンター部門」としてそれぞれ従来どおりの運用をすることになっていますので、利用上の変更点はほとんどありません。

この組織統合により、図書館施設とAVセンター施設及び関連施設の管理運営、並に文字・AV資料の受入・整理・奉仕業務、資料収集と研究・出版に関する事務は図書・情報課が担当いたします。

なお「図書・情報館」の名称は、柴谷学長によって命名されたものです。

「もの」に新たな生命を

資料収集委員会 資料収集委員長 山名伸生

資料収集委員会は、文字通りにとればものを集めるところ、ということになります。けれども実際はものが「あつまる」ところでありたいと考えています。ものが改めて輝きを増し、私達にその光を分かち与えてくれるようになる窓口としたいのです。

招待するにふさわしいものとは何か。まずこれを見極めるのが私達の仕事ですが、ただものは安全に保管され、資料として活用される条件が整っていなければ、決して来てはくれません。ですから展示・広報活動や目録の作製等、このお客さんを迎える準備にも取組んでいます。

しかしやはり全てはものとの出会いから始まります。皆さん周りを見わたしてみて下さい。「良縁」は案外身近にあるかもしれません。

新任教職員からの一言

環境のよさに満足
美術学部教授（洋画） 村岡三郎

私はこの度精華大学に赴任することになり、住みなれた騒音の大阪を離れ、ここ京都洛北の地に居を移すことになりました。この年令になった私にはそれはたいへん幸いなことですが、ただ妻は当分大阪と行ったり来たりで、少しうろたえている様子。私はそれを横目でみながらときおり深緑の叡山を眺めています。いつか円通寺の庭に立って妻と二人で月を見たいと思っています。

久し振りの日本で
美術学部教授（版画） 白井昭子

久し振りに日本の若い人達と一緒になる、それも京都で。他の大学で教えながら大学院にいき、終ると同時にロックフェラー財団の招きで渡米以来、もう20年以上たつなんて本当に信じがたい。この10年間は、東京とニューヨークでの仕事を半々にやれるよう努力して来たが、今年は特に、世界はせまくなったという実感が強い。私の経験とか知識が、次の世代に大いに役立つことを願っている。

論理的な思考力を
人文学部教授 春日キスヨ

教えはじめて二月余。精華大の学生さんはものおじせず、まっ直ぐないい感性をしてるなというのが第一印象です。これに論理的な思考力がつけば「鬼に金棒」だと思います。億劫がらずに本を読み、しつこい位に相互ディスカッションをして、そうした力を培っていって下さい。

アフリカ発セイカ着
人文学部教授 小川了

学生時代はフランスで、その後はアフリカの、それも田舎に住む人々との接触の中から、生活の仕方、ものの考え方などの違いなどについて学んできましたが、個人的には「よう似ているなあ」という思いがします。しかし、現今の世界は民族紛争ばかりの観あり。似ているけと少し違う、少しの部分にこだわるのが人間の人間たるところなのかと考えています。

ことばのおもしろさを
人文学部講師 江口英子

日本語を教えていて、一番感じるのは、自分が日本語を深く考えることなく使ってきたということです。

ことばは奥が深い不思議なものです。みなさんとともにこの大学で、ことばを、そしてことばについて学べることは幸せです。

☆教職員人事

〈新任〉
○村岡 三郎教授（洋画）
○白井 昭子教授（版画）
○春日 キスヨ教授（人文）
○小川 了 教授（人文）
○江口 英子講師（人文）

〈退職〉
○難波 直彦講師（VCD）
○松本 健一教授（人文）
○上野 千鶴子教授（人文）
○山本 テル子氏（事務局）

〈学外研究員〉
○矢ケ崎 庄司教授（人文）
一九九三年四月一日～一九九四年三月三十一日（タイ他）
○梶井 弥寿子教授（人文）
一九九三年四月一日～一九九四年三月三十一日（アメリカ）
○千阪 靖朗教授（人文）
一九九三年四月一日～七月三十一日（国内）
○堤 邦彦助教授（人文）
一九九三年四月一日～七月三十一日（国内）
○笠原 芳光教授（人文）
一九九三年四月一日～一九九四年三月三十一日（国内）

一九九三年度大学役職者

学長 柴谷 篤弘（教授）
美術研究科長 斎藤 博（教授）
美術学部長（兼） 斎藤 博（教授）
人文学研究科長 末石富太郎（教授）
人文学部長 藤枝 澪子（教授）
教務部長 中平 佳男（助教授）
学生部長 栗巣 満（助教授）
図書・情報館長 田口 瑛子（教授）
広報部長 中尾 ハジメ（教授）
就職部長 野上 芳彦（教授）
事務局長 景山 喜巳（事務局）

一九九三年度大学在籍法人役員等

（理事）
学長 柴谷 篤弘
企画室 杉本 修一
人文教授 松浦 逸郎
美術教授 末石 富太郎
（法人）
理事長 松谷 昌順
事務局長 笠原 芳光
（顧問） 井上 弘次
理事 駒井 四郎

国際交流の近況
――国際交流課

昨年9月、本学とオーストラリアの国立キャンベラ美術大学の間で学術交流一般協定が締結され、両学間での学生、教員の交換、共同事業が可能になりました。協定に基づき早速この9月には美術学部の学生15名と教員2名が約3週間の特別プログラムにでかけることが決定しています。本学とキャンベラ美術大学交流の実質的なスタートとなります。また、同時期から正規の交換留学も開始され、大学院版画専攻の富永由美子さんが半年間キャンベラ美術大学院に派遣されます。

また6月7日には、本学にミシガン大学美術学部ステファンソン学部長以下2名の関係者をお招きし、本学との間で学術交流一般協定が締結されました。すでにミシガン大学との間ではサマープログラムを通して交流実績がありましたが、今回の協定締結によって今後の両学間の関係がさらに強いものになりました。

以上2大学との協定締結は美術学部にとって本格的に海外の大学との交流を進める時代が到来したことを示すものと言えましょう。

4月1日からは姉妹校であるアメリカのアンティオーク大学から8名の学生とハロルド・ライト先生が6月末までの予定で来学しています。一昨年のパペットグループの来学に次く今回のアンティオーク大学グループの研究テーマは「庭園を中心とした日本文化」です。学生の専攻は文化人類学、哲学、演劇他と様々ですが、各自の興味のある講義を聴講する傍ら、学内のサークル活動に参加したり、地域での調査研究活動を行ったり積極的に活動している様子です。本学に過去何度も来学しているハロルド・ライト先生は、

「アンティオークと精華の関係はとても素晴らしいものであると感じています。しかしこの関係はいわばまだ始まったばかりであり、これから毎年数多くの学生がお互いのキャンパスを行き交い、楽しく充実した交流が継続することが重要でしょう。いま精華に来ているアンティオークの学生はとても刺激的な経験をしているようです。他の日本の大学ではない精華大学に滞在していることが学生にとって有利に働いているようです。フィールドワークでアンティオークにやってくる精華の学生たちも大きな収穫を得ているようです。いづれにしても、この関係を発展させてゆきたいですね。」

と話しておられます。

人文学部ではタイ、アメリカ、オーストラリアの海外フィールドワークを中心にすでに毎年60余名の学生が海外で学んでいます。大学とは関係なく個人での留学を希望する学生も増加しています。

国際交流課としては大学が行うフィールドワーク、サマープログラムなどのグループでの交流は勿論、正式に海外の大学に留学するための手段も積極的に模索したいと考えています。

三回目の新入生歓迎キャンプを終えて

実行委員長　栗巣　満

今回で三回目を迎えた人文学部新入生歓迎キャンプ（四月二日～四日、鉢伏高原）は、総勢五五〇人を越える過去最大の規模となり、多少のとまどいの中、おおむね成功のうちに終了することができた。いくつかの問題やトラブルも無難に乗り越えることができたのも、今回の歓迎キャンプ参加在学生の多大なる協力に負うところが大きい訳であるが、私自身としては、自らは歓迎キャンプを体験してはいないが、上級生として新入生に対して何かを伝えたいという気持ちから、第一回、第二回のキャンプに積極的な参加態度を示してくれた、この春に卒業した一期生と現四回生が地味ではあったが、確実な地盤づくりに努力してくれたお陰ではないかと考えている。今回のキャンプの中にも、まさに試行錯誤の中、手づくりで実施した二回目、二回目があったればこそと感じさせられる場面が多々あったことも事実である。心より感謝の意を表する次第である。

キャンプで実施されたイベントの中では、前回より行なっている「国内・海外フィールドワーク体験談」は今年も活気があり、新入生たちのフィールドワークへの興味と関心の強さを再確認することができた。また夜のおまつり広場では、タイフィールドワーク体験学生によるタイ料理の食事会には、予想を上回る学生が参加し、タイの味に舌鼓を打ちながら上級生たちの話に耳を傾けていたのが特に印象的であった。

このように、まだ三回目のキャンプではあるが、多くのセイカ人の協力により、すでにその基礎ができ上がっていると考えられるのである。

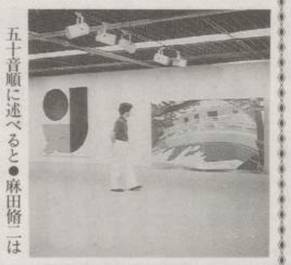
キャンプ実施当初は、不安の中で、どんなにうまくいかなくても最低三回は実施しようと考えていたが、その三回が除々に発展してきたことをうれしく思い、また多くの人々の良き理解と協力を得て、さらに発展することを希望する次第である。

"染・織――京都からの発信展"

美術学部教授（テキスタイルデザイン）麻田脩二

テキスタイル　デザイン研究室に附属する教員の合同展を"染・織―京都からの発信"と題して昨年七月二十八日～八月一日まで京都文化博物館で行いました。これは日頃の制作活動の一端を色々な所属をこえ一堂に展示することにより教員同志の研鑽をはかると同時に学生に対しても作品を通じて対話することを意図して行ったものです。また対外的にも当研究室の紹介並びにその評価を問うものとして初めての試みでありましたが、その積極的な姿勢と内容的にも種々の傾向の作品が見られ、染織の現在の再認識を問うものとして評価も高く、夏の暑い盛りとはいえ来館者も千名を超えました。又このような展覧会を持つことにより専任・非常勤の枠をこえて自由に意見を述べ合い、お互がより一層理解を深めあう事が出来た事も非常に有意義であったと思います。

以下簡単にその内容について記してみます。出品者は専任・非常勤を合せて十三名で各自に五米の壁面が与えられ、その範囲内で自由に作品を発表しました。



五十音順に述べると●麻田脩二は"WORK S－6""WORK S－7"ステン・シル染めによるパネル●市村富美夫は"空を抱く人"スクリーン捺染による染パネル●今村敬子は"PRISMATIC SPACE" '92 PARDISE"型染めパネル●潮隆雄は"雲を乞る"波光織タピスリー●大久保直丸は"雨のあと"ろうけつ染屏風●河崎春生は"春光""秋日"織タピスリー●河田孝郎は"赤い石""廃墟"・糊防染による屏風●小林祥晃は"月砂"ろうけつ染屏風●善田康豊は"WATER SERISE"ステンシル染布●高倉光雄は"冬の蛍Ⅰ""冬の蛍Ⅱ"ろうけつ染による屏風●田中紀子は"海のシンフォニー""海流"織タピスリー●鳥羽美花は"発く""樹"型染め屏風●藤本哲夫は"WORK '92－1"織作品の計二十一点です。

（昨年秋号で紹介できなかったので今号に掲載しました―編集部注）

クラブ紹介
ジャズダンス・クラブ

「Five, six, seven, eight!」という大きな声がエントランスホールから聞こえてきたら、そう、それは、Chippers!!

身体からほとばしるエネルギーを存分に感じながら、リズムにのって思いっきり動いています。"Chipper"とは"元気のよい、快活な"という意味。その名の通り、明るく、楽しく、元気よくをモットーに、自己の持つ肉体的・精神的可能性を少しでも多く引き出せるよう練習に励んでいます。

ダンスは見た目よりはるかにハードなものです。大学に入るまでダンスをしたことのない部員がほとんどであり、また、現在は5号館エントランスホールを借りている状況で練習も大変です。しかし、練習をするごとに新しい自己発見があり、心と身体のエネルギーが着実にアップしていくようです。

練習は通常、月・木・土の週3回、1回3～4時間の練習をしています。エアロビクスをはじめ、身体を動かしていくために必要なダンスエクササイズやダンステクニックの練習と簡単な振り付けを毎回行いますが、今は様々なジャンルのダンスに挑戦しているところです。

日頃の練習の成果は学内外で発表しています。今年は、4月の人文学部新入生歓迎キャンプ、5月の京都学生まつり、6月の五月祭とステージに立ちました。11月の木野祭にもぜひ発表したいと思っていますが、何といっても大きな目標は、7月に行われるダンスフェスティバルです。毎年全国から一〇〇校以上の高校・大学の学生が神戸に集まり「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」が開かれており、私達も昨年から参加するようになりました。今年もまた、あの大きな舞台で気持ち良く踊ることができるように、現在作品の制作に取り組んでいます。

一年生も多数入部し、現在部員は二〇名。一人一人のやる気が満ちあふれているChippers。ますますパワーアップした活動を続けていきたいと思います。

就職部だより

最初に、お力添えいただいた卒業生およびご父母のみなさまにお礼申し上げます。

昨年度は、何はさておき、人文学部第一期生の就職ということで、学生諸君はもとより、顧問の三先生を含む就職部以下、全学あげて努力を重ねました。

おかげさまで、厳しい採用状況のなか、まずまずの成果が得られたものと思います。上場企業を中心にいくつかの企業をあげてみます。

（建設）清水建設、鹿島、三井建設、大和ハウス工業、NECシステム建設、近畿通信建設（繊維）鐘紡、川島織物、兼松羊毛工業（化学）花王、大正製薬、三洋化成工業（流通）近鉄百貨店、京都近鉄百貨店、ニチイ、イズミヤ、平和堂、ユニー、ライフコーポレーション、関西スーパーマーケット（金融）さくら銀行、京都銀行、滋賀銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、福井銀行（商社）レナウン、三菱事務機械、エービーシー商会、野村貿易（物流）三菱倉庫、菱光倉庫、日本通運、名鉄運輸（情報ソフト）日立情報システム、住生コンピューターサービス、トランスコスモス（サービス）京都ホテル、京都プライトンホテル、オリエンタルホテル、その他日本エアシステム、トッパンムーア、コープこうべ、京都生協、川合塾など多岐にわたっています。

美術学部については、バブル経済崩壊の影響で、広告プロダクション、企業系内デザイナーなどの大巾な採用減がみられました。そのいっぽう、ゲームソフト関係は、好調な業績を反映して、セガエンタープライゼス、コナミ、ナムコ、カプコン、アイレム、タイトーなどへの就職がめだちました。その他、例年名前のあがる企業とならんで、読売テレビ放送、中国放送、ダイハツ工業、住友林業などがあげられます。

今年度については、周知の通り、「地すべり的状況」です。しかし自己を十分みつめて活動すれば、道は開けると確信しています。

長谷川治清先生が久しぶりにお里帰り

元本学の教員で現在シェフィールド大学（イギリス）教授の長谷川治清先生が、去る四月十九日、久しぶりに来学されました。先生は三月三十一日から四月二十五日迄日本に滞在されたのですが、今回は国際交流基金による研究調査が目的であったためその殆どの期間を東京・神戸で仕事をされ、本学への訪問は一日だけとなりました。

当日は、先生と親しい教職員やイギリスを訪れたときに先生にお世話になった教職員が二十数名集まり、先生と昼食をしながら楽しく懇談する一時をもちました。

その席で先生は、この数年の間に精華が大きく変化、発展したことに驚くとともに、心から嬉しく思うと話されました。

また、先生はイギリス産業省による企業研修プログラムの部長をつとめておられ、留学生に接する機会も多いので、今後日―英、精華―シェフィールドの交流が深まることを期待しているとのお話もありました。

なお、来年の夏にはご家族とともに約一ケ月帰国される予定とのことです。

先生のご健勝をお祈りするとともに、再開の日を楽しみにしたいと思います。

同窓会通信
木野会活動報告

木野会会長　赤阪　博

卒業生の皆様方には、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。同窓会「木野会」も皆様方のご理解とご支援を得まして5周年を迎える事が出来ました。

設立以来、会の重要な課題として卒業生間の親睦と、独立した会として運営基盤を確保する事を目標として活動を行ってまいりましたが、おかげさまで昨年8月に京都都ホテルで開催した第1回合同同窓会には多数の卒業生や教職員の皆様にご参加いただくことができ、盛大な催しとなりました。

又検討を重ねてまいりました会費の納入方法については、大学の協力を得て本年度より予納金として納入していただく事になりました。

これにより皆様方の近況や社会でのご活躍の様子、大学の情報、会の活動報告を木野会会報として会員の皆様にお届けするよう計画しております。

さて、大学は今年25周年を迎え創立以降の卒業生は一万人を超える人数になっております。

地元京都を離れ全国各地でご活躍されている卒業生も多く、とりわけ首都圏地区においては約700名、以北の方々も含めると800名近くの方々が在住されています。

同窓生間の情報交換や懇親を深めると共に後輩への窓口として東京支部を設立し、今後木野会の組織として育ててゆかねばと考えております。

首都圏地区では、数年前に一度設立の為の準備委員会がもたれ気運が高まったこともありました。

今年3月再度有志の皆様が集まられ準備委員長には68年度デザインの高瀬氏・副委員長には同じくデザインの森氏・他英文科・美術科から数名の委員が選出されました。

準備委員会では現在、首都圏地区在住の皆様の参加への呼びかけを行うとともに支部設立にふさわしい、にぎやかで楽しい懇親パーティを企画しています。詳しくは案内状でお知らせいたします。

皆様おさそいあわせの上ご参加下さいますようお願い致します。

ご案内

木野会会長　赤阪　博

◆東京支部設立会議懇親パーティー
日時　93年9月5日(日)
　　午後2時～5時
場所　渋谷・新大宗ビル
　　フォーラム8

◆第6回木野会総会
日時　93年11月3日(水)
　　午後2時～5時
総会　午後2時より
　　明窓館201教室
懇親会　午後2時30分より
　　春秋館201教室

◆木野会費についてお願い

木野会会費の納入につきましては、格別のご協力を頂き有難うございます。年々会員数も増加しておりますが、今後共皆様の絶大なるご協力をお願い致します。

会費の振込先は次のとおりです。

「郵便振込番号＝京都0・42332精華大学同窓会木野会」。

入学年度、専攻、旧姓をお忘れなく。

一九九四年度入試に向けて
――入試広報課

九三年度志願者総数は七、二八二名で、昨年度の七、三三九名より五七名減の、ほぼ昨年度並みという結果になりました。学部別にみると、人文学部は三、七三九→二、六六九と一、〇七〇名減。美術学部は三、六〇〇→四、六一三と一、〇一三名増。つまり人文学部で減り、美術学部で増加した結果、プラスマイナスゼロになったということです。

人文学部の減少の原因は、全国の人文系学部と同様、併願控えによる受験生人口激減が影響したようです。「大学市場のバブル崩壊」とも言われていますが、一八歳人口がピークを過ぎた今、受験生が減少する傾向は来年度以降も続くことは間違いありません。

一方、美術学部の増加は、九三年度から導入した「学部内併願制度」が主な原因です。実技Bの入試日程が重ならない限り、第二志望の専攻分野を併願受験できるというこの制度によって、美術学部受験生全体の約一七%が併願受験しました。

さて、九四年度入試については、大きな変更点はなく、「学部内併願制度」もそのまま引き続き実施されます。日程は左記の通りです。

若干の変更点として、人文学部で配点が変わります。推薦入試の英語二〇〇点が一〇〇点に、一般入試の英語二〇〇点・国語一五〇点・選択科目一五〇点が三科目すべて一〇〇点に、それぞれ変更されます。このため試験時間も一科目一時間になり、受験生の負担は少し軽減されることになりました。

九四年度以降、志願者動員に楽観的な要因はありません。これからの入試広報活動が問われる時代になったと考えています。

一九九四年度入試日程

選考		学部・専攻分野			出願期間	試験日	合格発表
推薦	公募制	人文			11/1～11/12	11/23	11/27
		美術	A	洋画・陶芸・マンガ	11/9～11/25	12/8	12/19
			B	立体造形・VCD		12/9	
			C	日本画・版画・建築・TD		12/10	
一般	一次	人文			1/17～1/31	2/11	2/18
		美術	A	洋画・陶芸・マンガ	1/19～2/3	2/16・17	2/26
			B	立体造形・VCD		2/18・19	
			C	日本画・版画・建築・TD		2/18・19	
	二次(地方)	人文			2/14～2/28	3/7	3/12

一九九三年度入試結果

人文学部（推薦・一般）

学科	入学定員	志願者			受験者			合格者		
		推薦	一般	合計	推薦	一般	合計	推薦	一般	合計
人文学科	300人	1,197	1,371	2,568	1,166	1,284	2,450	284	365	649

美術学部（推薦・一般）

学科	入学定員	志願者			受験者			合格者		
		推薦	一般	合計	推薦	一般	合計	推薦	一般	合計
造形学科	150人	1,302	776	2,078	1,266	721	1,987	137	62	199
デザイン学科	150人	1,582	913	2,495	1,513	827	2,340	136	85	221
合計	300人	2,884	1,689	4,573	2,799	1,548	4,327	273	147	420

京都精華大学
1992年度決算及び1993年度予算報告

《概要》

一九九二年度の帰属収入は、前年度より四億六千万円増の三九億四千万円でした。この内、学生納付金が八三・六%を占めています。

支出では、グランド造成及びテキスタイル棟建築等の施設関係支出に約十億円。人件費及びその他の経常経費に三十億円。結果、三億五千万円の支出超過（赤字）でした。

九三年度はほぼ前年並の予算です。

貸借対照表

平成5年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部 科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(9,351,650)	(8,274,743)	(806,907)
有形固定資産	8,612,476	7,826,610	785,866
土地	1,925,652	1,865,652	60,000
建物	3,701,230	3,799,833	△98,603
構築物	820,783	858,373	△37,590
建設仮勘定	1,000,425	170,000	830,425
教育研究用機器備品	693,838	694,339	△501
その他の機器備品	11,192	11,141	51
図書	459,269	426,949	32,320
車輌	87	323	△236
その他の固定資産	919,174	898,133	21,041
電話加入権	1,947	1,947	0
有価証券	0	2,000	△2,000
長期貸付金	276,313	253,272	23,041
退職給与引当特定資産	110,491	110,491	0
減価償却引当特定資産	380,423	380,423	0
維持運営引当特定資産	0	0	0
資産取得引当特定資産	0	0	0
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0
流動資産	(1,929,869)	(1,794,151)	(135,718)
現金預金	1,808,028	1,721,624	86,404
未収入金	35,519	7,185	28,334
短期貸付金	13,875	3,947	9,928
有価証券	50,000	50,000	0
立替金	7,705	1,897	5,808
前払金	12,652	9,408	3,244
販売用品	0	0	0
保証金	2,090	90	2,000
内部勘定	(△ 324)	(△590)	(266)
資産の部合計	11,461,195	10,518,304	942,891

負債の部 科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	(2,926,860)	(3,117,482)	(△190,622)
長期借入金	2,573,630	2,846,188	△272,558
退職給与引当金	353,230	271,294	81,936
流動負債	(1,355,318)	(1,194,197)	(161,121)
短期借入金	264,390	265,186	△796
未払金	50,091	41,916	8,175
前受金	959,133	832,540	126,593
預り金	81,704	54,555	27,149
負債の部合計	4,282,178	4,311,679	△29,501

基本金の部 科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	7,843,606	6,530,423	1,313,183
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	150,000	150,000	0
第4号基本金	196,000	181,000	15,000
基本金の部合計	8,189,606	6,861,423	1,328,183

消費収支差額の部 科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	1,010,588	654,797	355,791
消費収支差額の部合計	△1,010,588	△654,797	△355,791
科目			
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	11,461,196	10,518,305	942,891

1992(平成4)年度資金収支計算書

平成4年4月1日から
平成5年3月31日まで

（単位：千円）

収入の部 科目	金額
学生納入金収入	3,293,400
手数料収入	262,335
寄付金収入	38,060
補助金収入	222,479
資産運用収入	91,491
資産売却収入	2,050
事業収入	2,360
雑収入	26,403
借入金収入	0
前受金収入	959,133
その他の収入	119,996
資金収入調整勘定	△867,755
内部勘定収入	△1,388
前年度繰越支払資金	1,721,624
収入の部合計	5,870,188

支出の部 科目	金額
人件費支出	1,638,035
教育研究費支出	473,275
管理経費支出	293,336
借入金等利息支出	163,532
借入金等返済支出	273,354
施設関係支出	997,747
設備関係支出	90,806
資産運用支出	0
その他の支出	181,311
分担金支出	11,386
資金支出調整勘定	△59,499
内部勘定支出	△1,123
次年度繰越支払資金	1,808,028
支出の合計	5,870,188

1992(平成4)年度消費収支計算書

平成4年4月1日から
平成5年3月31日まで

（単位：千円）

収入の部 科目	金額
学生納付金	3,293,400
手数料	262,335
寄付金	40,446
補助金	222,479
資産運用収入	91,491
資産売却差額	0
事業収入	2,360
雑収入	26,403
帰属収入合計	3,938,914
基本金組入額合計	1,328,183
消費収入の部合計	2,610,731

消費支出の部 科目	
人件費	1,719,971
教育研究経費	756,065
管理経費	294,995
借入金等利息	163,531
資産処分差額	20,574
分担金	11,386
徴収不能引当金繰入額	0
消費支出の部合計	2,966,522
当年度消費支出超過額	355,791
前年度繰越消費支出超過額	654,797
翌年度繰越消費支出超過額	1,010,588

1993(平成5)年度資金収支予算書

平成5年4月1日から
平成6年3月31日まで

（単位：千円）

収入の部 科目	金額
学生納入金収入	3,564,424
手数料収入	239,350
寄付金収入	43,000
補助金収入	250,000
資産運用収入	80,000
資産売却収入	0
事業収入	1,000
雑収入	17,200
借入金収入	0
前受金収入	525,835
その他の収入	75,519
資金収入調整勘定	△969,133
内部勘定収入	0
前年度繰越支払資金	1,808,028
収入の部合計	5,635,223

支出の部 科目	金額
人件費支出	1,741,000
教育研究費支出	560,352
管理経費支出	266,126
借入金等利息支出	159,418
借入金等返済支出	264,390
施設関係支出	631,200
設備関係支出	107,724
資産運用支出	0
その他の支出	100,974
分担金支出	12,000
（予備費）	30,862
内部勘定支出	324
資金支出調整勘定	△42,652
次年度繰越支払資金	1,803,505
支出の合計	5,635,223